

## 在学生の保護者が伝える わが子の入学後に知った大学の価値

### 広島工業大学

広島工業大学はオープンキャンパスで、受験生の保護者の質問に在学生の保護者が答えるコーナーを設けている。大学からの発信では伝わりづらい教育や学生支援の特徴を、体験を交えた説明を通して理解してもらうのがねらいだ。

### さまざまな立場の人が 相談員を担当

広島工業大学の「保護者による、保護者のための大相談会」は、毎年、夏に計2日間開かれるオープンキャンパスで開催される。「入試」「大学生活」「経済支援」など、テーマごとに在学生の保護者が相談に対応するが、これら以外の質問にも答える。この相談会を訪れる受験生の保護者は年々増えているという。

この取り組みを始めた2010年度は、相談員として大学に協力した保護者は約30人で、母親が多かった。現在は、さまざまな質問に対応できるように、県外在住者や父親、卒業生の保護者などにも依頼。同大学は毎年、教員が在学生の保護者と面談する教育懇談会を全国10か所で開催しており、参加者の中から教育内容に関心が高い人に相談員になってもらえるようお願いしている。そのうち7割程度が応じてくれるという。

大学側からの相談員に対する注意事項は、「学科の教育内容や入試制度について聞かれたら教職員のブースに誘導してほしい」といった最低限のことのみだ。2011年度は、質問する相手を選べるよう、「下宿生の保護者」「女子学生の保護者」といったプレートを付けていたが、2012年度はこれをやめ、取り組み始めた当初から毎年協力しているベテランの相談員が、質問内容に応じて適切な相談員を振り分けるコーディネーター役を務めた。

「最初の年は何を言われるのか不安もあったが、まったく問題はなかった。在学生の保護者と受験生の保護者はいわば先輩・後輩の関係。わが子の受験時の経験と重ね合わせて、親身に対応してくれている」と、入試広報部の杉田洋部長は話す。

### 導入のねらいは 支援制度の認知拡大

杉田部長は「学力も意欲も多様な学生に対応できるきめ細かな教育システムと学生支援は、本学の大きな価値」と話す。同大学は、入学前教育、授業で理解できなかった部分を指導する補填教育、教員が学生生活をサポートするチューター制度、学生アドバイザー制度などを実施しており、これらについて大学案内や各種説明会で強調している。相談会を始めたきっかけは、保護者に訴えたいこれらの特徴が思うように伝わっていないと気づいたことだ。

「保護者は、自身の学生時代にはなかったであろう教育システムや学生支援には、最初から目を向けていない。さらに、大学から発信される情報はきれいごとばかりと思われ、あまり信頼してもらえない」と分析。より近い立場に感じられる在学生の保護者から、大学の特徴について話してもらおうと、2010年度から相談会の実施を決めた。

ただし相談員には、話してほしい内容は伝えていない。このことが相談会が人気を集める理由だと杉田部長は考



「保護者による、保護者のための大相談会」の様子。

える。「在学生の保護者にも、わが子の受験時には入試の難易度や方式などを基準に大学を見ていた人が多い。こうした人たちが、入学後に知った本学の価値を、自らの観点で話すから、相手の心に届く。『言われている』わけではないため、相談員も大学を信頼し、快く協力してくれる」。相談した保護者からは、「きめ細かな教育システムや学生支援体制の充実について初めて知った」という声がよく聞かれるという。

同大学のオープンキャンパス参加者に占める保護者の割合は、2007年の約8%から、2012年は26%に上昇。教育懇談会にも新入生の保護者は2割以上参加する。こうした保護者の関心の高まりは、高校生、大学生から保護者に情報が伝わっていないことの表れだとも杉田部長は言う。

「大学と保護者は、学生の成長を共に支える関係でありたい。受験時から保護者が教育・学生支援の体制を知れば、それが入学の決め手になることもあるし、入学後、わが子へのアドバイスにも生かせるはず。今後も保護者への情報の伝え方を考えていく」と話している。